

強化部/競技部：2025 年リーグ戦 1 部リーグのチーム数・対戦方法

I. 前提条件の整理

1) 強化部のゴール

- ①インカレの枠取り（ベスト 4 以上） ←関西がベスト 4 入りしたのは 2016 年が最後(大阪人間科学)
- ②シード取り（ベスト 8・16 以上） ←2024 インカレはベスト 8=0, 16=4

↓

成績目標の設定は各チーム単位で形成されるもの

↓

強化部にできることは少しでも①②に貢献できる試合環境を整えること

- ❶「強化に繋がる拮抗したゲーム（単に接戦という意味ではなく）」を増やすこと
- ❷トーナメントのような 1 巡で終わらずに成長できる 2 巡を実現すること
- ❸インカレの推薦枠数が 1 次リーグで決まらないこと（現状 5or6）

2) 競技部のゴール

- ①実現可能性の高いスケジューリングを組むこと

- ❶県総合（8 月下旬）
- ❷皇后杯 1 次ラウンド（9 月：近畿総合の復活が検討されている）
- ❸国体（10 月）
- ❹台風等の予備日
- ❺日学への推薦日（11 月 2 週目）前に全日程を終える

↓

10 チーム 2 巡（18 試合）では開催に必要な日数が足りない

↓

上記 1) と 2) から考えられる選択肢

- ①案：8 チーム 2 巡（14 試合）（2019 方式、2020:コロナによる中止、2021:8 チーム 1 巡のみ）
- ②10 チーム 1 巡後に 2 次リーグ

②-1 案：上 4-下 6（2022 方式：上 12 試合、下 14 試合）

②-2 案：上 5-下 5（2023 方式：上下 13 試合）

※2018 以前の 8 チーム 1 巡後に上 4+下 6（2 部 2 位まで）方式は入れ替え戦実施のため除外

Ⅱ. 過去のリーグ戦のデータ分析

1) 戦1次リーグにおける上位と下位の平均得失点差は増加（結果としての得失点差の視点）

- 2021 年上位 4 チームが下位 4 チームと対戦した際の平均得失点差は 17.1 点
- 2022 年上位 5 チームが下位 5 チームと対戦した際の平均得失点差は 26.4 点
- 2023 年上位 5 チームが下位 5 チームと対戦した際の平均得失点差は 29.0 点

2) 2 巡目における順位の入替わりは 2 年ともあり（結果としての勝敗の視点）

- 2022 年：上位リーグ 2/4 チームが変動 下位リーグ 5/6 チームが変動
- 2023 年：上位リーグ 4/5 チームが変動 下位リーグ 3/5 チームが変動
- 2 巡した結果 1 勝 1 敗の対戦が増加

2023 年度					
上位	人科	3 チームと 1 勝 1 敗	下位	外大	3 チームと 1 勝 1 敗
	体大	3 チームと 1 勝 1 敗		園田	2 チームと 1 勝 1 敗
	人科	3 チームと 1 勝 1 敗		産大	2 チームと 1 勝 1 敗
	関学	3 チームと 1 勝 1 敗		奈良	1 チームと 1 勝 1 敗
	立命	2 チームと 1 勝 1 敗		関大	1 チームと 1 勝 1 敗

2022 年度					
上位	人科	1 チームと 1 勝 1 敗	下位	外大	1 チームと 1 勝 1 敗
	立命	2 チームと 1 勝 1 敗		関学	-
	体大	1 チームと 1 勝 1 敗		園田	-
	武庫	3 チームと 1 勝 1 敗		関大	1 チームと 1 勝 1 敗
				奈良	-
				天理	1 チームと 1 勝 1 敗

3) 2 部から昇格したチームが一方的に負けている状況ではない（2 部から上がったチームの視点）

4) 5 チームずつの編成はインカレでの戦いを再現出来る可能性（試合方式の視点）

- 前日に試合がない“待受け”方式を意図的に上位に対して設定できる

5) スターティングメンバーのプレイタイムからの検討

(結果としての得失点だけでは評価できないゲームの強度/質の視点)

2019 リーグ戦データ (8 チーム 2 巡を実施した年)

平均 / Time	列ラベル				
	1巡目		2巡目		総計
行ラベル	対戦上4	対戦下4	対戦上4	対戦下4	
結果上4	136:37	126:07	125:58	124:38	128:08
結果下4	137:16	128:36	134:25	141:41	135:33
総計	136:59	127:13	130:38	132:13	131:50

上位4チームは

下位4チームとの1次リーグ対戦と2次リーグ対戦でスターティングメンバーのプレイタイムの変動が少ない

平均 / Time	列ラベル				
	1巡目		2巡目		総計
行ラベル	対戦1-5	対戦6-8	対戦1-5	対戦6-8	
結果1-5	134:15	130:08	123:58	129:44	129:28
結果6-8	131:43	132:20	138:43	142:00	135:47
総計	133:12	130:50	130:17	133:14	131:50

上位5チームは

下位6~8チームとの1次リーグ対戦と2次リーグ対戦でスターティングメンバーのプレイタイムの変動が少ない

2023 リーグ戦データ (10 チーム 1 巡→上下5チームで1巡を実施した年)

平均 / Time	列ラベル				
	1巡目		2巡目		総計
行ラベル	対戦上5	対戦下5	対戦上5	対戦下5	
結果上5	148:20	113:19	149:16		135:09
結果下5	140:33	146:47		147:18	144:33
総計	144:01	128:11	149:16	147:18	139:51

上位5チームは

下位5チームとの1次リーグ対戦でスターティングメンバーのプレイタイムが少ない

平均 / Time	列ラベル					
	1巡目			2巡目		総計
行ラベル	対戦1~5	対戦6~8	対戦9~10	対戦1~5	対戦6-10	
結果1~5	148:20	116:00	109:19	149:16		135:09
結果6~8	136:57	141:08	142:05		149:00	142:05
結果9~10	145:58	155:38	151:15		144:46	148:14
総計	144:01	130:23	124:54	149:16	147:18	139:51

上位5チームは

下位6~8, 9~10チームとの1次リーグ対戦でスターティングメンバーのプレイタイムが少ない

平均 / Time	列ラベル				
	1巡目		2巡目		総計
行ラベル	対戦1~8	対戦9~10	対戦1~5	対戦6-10	
1~8	135:51	121:36	149:16	149:00	137:45
9~10	149:36	151:15		144:46	148:14
総計	138:54	124:54	149:16	147:18	139:51

上位8チームは

下位9~10チームとの1次リーグ対戦でスターティングメンバーのプレイタイムが少ない

Ⅲ. 結論

- ①上位・下位間の点差は広がっている（結果としての得点の視点）
- ②上位同士内/下位同士内では2巡目に順位が入れ替わっている⇨競争激化（結果としての勝敗の視点）
→1部の枠が広がることによって将来的な強化校の増加が見込まれる（普及・育成の視点）
- ③8チーム2巡制（2019）と比較して10チーム1巡→上下5チーム1巡制（2023）を比較すると
上位チームにとって1次リーグの下位チームとの対戦はスターティングメンバーのプレイタイムが短い
→特に9～10位との対戦ではスターティングメンバーは20分程度のプレイタイムになっている
→ベンチメンバーの強化には貢献できている
→スターティングメンバーの強化とは言えない
（結果としての得失点だけでは評価できないゲームの強度/質の視点）
- ④1部上位チーム、1部下位チーム、2部上位チーム……どこに強化に焦点を当てるか
強化的視点と普及的視点のいずれを最重要とするか
で選択肢は変わる

Ⅳ. 結論に基づく原案

第1案：10チーム1巡後に上下5チームに分けた2次リーグ（13試合：現状維持 ②-2案）

メリット

- ①リーグ戦の中でインカレを想定した上位の待受方式をシミュレーションできる
- ②1部の中で強化と普及の両輪をバランスをとって回すことができる
強化：2巡目は接戦が見込まれる上位チーム同士/下位チーム同士での試合に絞られる
普及：1部の枠数が増えることで下部所属チームの競技意欲/強化意欲が高まる
- ③下位チームもインカレ出場をかけて戦うモチベーションが保つことができる

デメリット

- ①下位チームは上位チームと2巡目を体験できない
- ②「負けたら落ちる」という厳しさが低減する

第2案：8チームによる2巡方式（14試合：①案）

メリット

- ①下位チームも上位チームとの2巡を経験できる
- ②強化を最優先して1部の門戸を8チームに絞ることにより勝負の厳しさが生まれる

デメリット

- ①1部の門戸が狭まる

Ⅴ. 追記事項

現行方式を維持しながらもインカレの結果を確認しながらの議論を継続する
上位チームに対するリーグ戦とは別視点の強化策を整える（他地区強豪校とのゲーム）